令和４年度の教育活動等に対する学校評価書

令和５年３月７日

学校法人大石寺学園上野幼稚園長　吉野　友勝

学校法人大石寺学園上野幼稚園学校関係者評価委員長　永田　雅一

１　幼稚園の教育目標

上野幼稚園は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に従い、幼児を保育し、適当な環境を与えて宗教情操の涵養と健全な心身の発達を助長することを目的とする。

本園ではめざす幼児像として

「健やかな体と豊かな心を育てる」ことを目指し、具体的に次の５項目を掲げる

１．丈夫な体を持つ子どもに

２．感謝の心、思いやりのあるやさしい心を持つ子どもに

３．豊かな自己表現ができる、創造性を持つ子どもに

４．頑張る心、辛抱強い心を持つ子どもに

５．よく聞き、よく見、よく考えることができる子どもに

２　本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

３　**自己評価結果とそれに対する**学校関係者評価結果

（※評価点は、Ａ（十分に成果があった）・Ｂ（成果があった）・Ｃ（少し成果があった）、Ｄ（成果がなかった）の段階で表すこと。）

評価項目	自己評価		学校関係者評価委員会	
	評価点	幼稚園としての反省と改善策	評価点	意見
・教育計画は、子どもの実態を的確につかみ、幼児の発達に即した指導が工夫され、具体的な手立てが講じられている。	A	・前年度の記録・反省・子どもの実態を考えて計画している。 ・年間計画から月案・週案へ移行し、関連付けている。 ・１年間の目標を決めている。 ・改善点や次年度への参考は記録に残す。	A	・年少・年中・年長と発達に応じた指導ができている。 ・日々の活動から目標を修正し、月案・週案を作成している。
・園がめざす幼児の姿を具体的にイメージできる。	A	・５つの教育目標が日常活動・行事の中で自然に実践されている。 ・外部の人たちの評価に現れている。	A	・５つの目標が教師の働きかけで、園児も保護者もイメージできている。 ・「人の話をよく聞く」という指導が徹底されている。
・子どもの良さを認めて評価しようとしている。	A	・子ども１人ひとりをよく見るようにしている。（ほめる・耳を傾ける） ・担任だけでなく、級外を含む職員全体で見ている。共通理解ができている。	A	・園全体で園児の良さをみつけ、声掛けや作品のコメントに現れている。 ・「子どもの話をよく聞く」という姿勢が教師側にある。
・遊びを通して工夫したり、協力したりする姿が見られる。また、遊びを通しての総合的な指導ができている。	B	・遊びに教師も参加しレパートリーを増やしたい。 ・子どもと同じ気持ちになれるよう心掛けている。 ・遊び発展の援助として廃材を用意したり、テープをすぐ使える場所に準備しておく等子どもの発想・意欲にすぐ対応できるようにしている。	B	・トイレットペーパーの芯や空き箱等を利用し、子どもの興味関心に応じた教材が用意され、やる気を起こさせる工夫がされている。 ・共同製作の大きな作品は協調性が出ている。

・規則正しい生活習慣の定着に向けての指導を行う。	A	・毎日のくり返し・積み重ねで自然に定着している。 ・挨拶は手本となるよう教師から元気よくしている。 ・うがい・手洗い等は慣れで雑にならないようにしている。	A	・来園者にしっかり挨拶する様子は日々の指導が行き届いていると感じる。 ・人の話を聞く習慣が身についていることは特筆すべきである。
・全職員が年に 1 回以上公開保育を参観し、研修する。	A	・今年は市全体研修の公開担当園で多くの先生方に参観していただき、うれしい感想、建設的な意見やアドバイスもいただき励みになり、自分を見直すことができた。	A	・市内研修会を通して客観的に自園を見つめ、高めようとしている。
・各研修会や研究会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	A	・今年は東海北陸研究大会の発表園として、テーマ「危機管理」を全員で見直し、理解を深めた。 ・自分の参加した研修は、まとめをし先生方に発表するので理解が深まる。 ・他の先生の研修内容も知ることができる。	A	・県内外の研修会に積極的に参加し、内容を報告し合っている。 ・自園の教育計画にも生かしている。
・一人一人の幼児をよく観察するように心がけている。	A	・健康状態だけでなく心の変化にも気をつけている。 ・担任だけでなく園長・副園長にも相談している。 ・複数の目で子どもの様子をみている。 ・毎日１対１で会話・スキンシップを心掛けている。	A	・各学年全ての園児の顔写真と名前が飾られ、その下にそれぞれが描いた似顔絵があり、発達の度合いが一目瞭然で、園児一人ひとりの把握につながっていると見受けられる。またかけがえのない一人の人格者としてとらえ、大切に指導していることがわかる。

・教員間の協力的な指導ができている。	A	・園児数少なく相談しやすい環境。 ・全体の共通理解ができている。 ・支援員の先生は一日中一緒でないので、担任から報告や依頼を忘れないようにしている。	A	・各行事を参観した際、園全体で協力的な指導や理解ができていることが実感できる。 ・授業を見学すると、様々な工夫があり、絶えず教師間でアイデア交換があると推測できる。
・保護者の実情や要望による預かり保育ができている。	A	・早朝・長期休業中の預かり保育も多くなり、充実している。	B	・保護者のニーズに応えている。
・月のよていや学年だよりの発行など、情報を発信している。 ・情報発信手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫をしている。	A	・月予定・学年・園長だよりがそれぞれの目的で毎月発行されている。 ・ホームページは、写真を多くし、更新回数も多くしている。 ・園紹介ポスターを作成し、市内各所に掲示依頼をし、毎月園庭開放をしている。	B	・ホームページには月ごとに行事が写真で掲載され、保護者にとって入園を考える上で大変参考になる。 ・園の方針や園児の表われなどタイムリーな情報発信をしている。 ・予定は発行前に再確認を心掛ける。
・季節の行事や遠足、保育参観の実施状況は、より活発な取り組みになっているか。	A	・コロナ感染対策と保護者の理解協力の中で、中止することなく各行事を実施している。 ・子どもたちにとって文化を知り、様々な体験をする場となっていると同時に子どもの達成感・充実感につながっている。	A	・ジャガイモ堀の絵から園児が楽しく、素晴らしい体験をしたことがうかがえる。 ・行事を通して園児を飛躍させようと努力している。特に達成感を味わわせ自己肯定感を高めることを保護者にも伝えている。